

## 北見赤十字病院 整形外科選択研修プログラム

### (1) プログラムの名称

北見赤十字病院整形外科選択研修プログラム（自由選択）

### (2) プログラムの目的と特徴

#### 1) 目的

研修を通じ、指導医の監督のもとに入院患者の基本的診療、および治療法並びに患者家族との接し方を学び、プライマリ・ケアに必要な基本的態度、判断力、技術、知識を習得する。可能な限り担当医として診療にあたる。

#### 2) 特徴

- ① 全ての整形外科疾患を診療できる体制
- ② 当直業務やオンコール業務を実施することにより救急医療を習得できる。
- ③ 上級医による直接的指導と指導医による客観的指導を受け適切な診療ができる。

### (3) プログラム責任者

菅原 修（副院長・第一整形外科部長）

### (4) 研修目標

#### 1) 行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努める。

#### 2) 経験目標

##### ①救急医療

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。

1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
4. 脊髄損傷の症状を述べることができる。
5. 多発外傷の重症度を判断できる。
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
8. 神経・血管・筋腱の損傷を判断できる。
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

## ②慢性疾患

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。

1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、MRI、造影画像の解釈ができる。
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
5. 理学療法処方の理解ができる。
6. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。

## ③基本手技

運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。

1. 主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径）ができる。
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。（身体部位の正式な名称がわかる）
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。
4. 神経学的所見がとれ、評価できる。

## ④医療記録

運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。

1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。  
主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴
2. 運動器疾患の身体所見が記載できる。  
脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL
3. 検査結果の記載ができる。  
画像（X線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織
4. 症状、経過の記載ができる。
5. 診断書の種類と内容が理解できる。

## （5）研修実施計画

### 1）期間

自由選択期間

## 2) 研修の実施方法

### ① 外来・病棟・手術室研修

外来・病棟において指導医・上級医の指導のもとに入院患者を受け持ち、基本的な診察法、検査法、治療法、患者家族への対応方法等を研修する。

また、手術室においては、牽引手術台・駆血帯使用の実際、清潔の概念、基本的な手術手技・整形外科での特有な手術器具等の理解を深める。

### ② 救急研修

初期診療に必要な救急処置、検査等を研修する。

全館当直・オンコール救急当番を当直医、上級医、指導医、救命救急当直医の指導のもと行う。

全館当直は月に1-2回程度、オンコール救急当番は週に1回程度の回数とする。

### ③ カンファレンスや教育研修委員会主催の講演会等

整形外科抄読会、整形外科カンファレンス、整形外科・リハビリ合同カンファレンス、教育研修委員会主催の講演会、研修会、勉強会、CPC等に参加し、研修内容の充実を図る。

## (6) 指導体制

総括責任者 菅原 修 (副院長・第一整形外科部長)

担当分野 : 脊椎・脊髄疾患

## (7) 研修の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に準ずる。